

## 施策評価調書(30年度実績)

政策体系	施策名	海外に開かれたネットワークづくりと輸出促進	所管部局名	企画振興部	施策コード	Ⅱ-5-(1)
	政策名	海外戦略の推進	関係部局名	企画振興部、福祉保健部、商工観光労働部、農林水産部、教育庁	長期総合計画頁	115

### 【Ⅰ. 主な取り組み】

取組No.	①	②	③	④
取組項目	海外の活力を取り込む	海外の人材を取り込む	国際交流・国際貢献の推進	国際人材の育成・活用

### 【Ⅱ. 目標指標】

指 標	関連する取組No.	基準値		30年度			元年度	6年度	目標達成度(%)				
		年度	基準値	目標値	実績値	達成度	目標値	目標値	25	50	75	100	125
i	①	H26	91	112	112	100.0%	118	150					

### 【Ⅲ. 指標による評価】

評価	理 由 等		平均評価
i	達成	アジアビジネス研究会での海外セミナーの実施やJETRO等関係機関の支援により海外展開企業が増加した結果、目標値を達成した。	達成

#### 【IV. 指標以外の観点からの評価】

取組 No.	指標以外の観点からの評価
①	・台湾台中市で開催された台中フローラ世界博覧会において、本県の伝統工芸である竹工芸と観光PRを行うことができた。香港ではレストランでの大分フェアを開催し、現地メディアを通じて、食と観光の情報発信を図ることができた。また、帰国留学生ネットワークの構築に取り組み、県内企業の海外進出や情報発信を行う体制づくりを進めている。
②	・県内留学生80人に対し奨学金を交付するとともに、大分県講座を実施し、大分県への理解促進を図った。
③	・海外代表チーム等のキャンプ誘致の結果、県内4市で6競技7種目のキャンプが8回実施され、3団体と東京オリンピック・パラリンピックの事前キャンプに関する協定書を締結した。また、参加チームから受入体制に好印象を得るとともに、トップレベルの選手との交流を通じ、スポーツ振興を図ることができた。
④	・留学生ビジネスセンターで、留学生の県内就職と起業に対してワンストップで対応するとともに、留学生ビジネス塾を開催し企業との交流会、現場体験、現役経営者による講演会などを行った。また、県内経済団体等と連携を図り、留学生と県内企業との相互理解を進めることができた。(留学生の県内就職・起業支援者数9人) ・グローバルリーダー育成塾の実施(参加者931人)等により、生徒が文化や価値観の異なる様々な人々と協働して課題研究などに取り組む機会を設け、グローバル人材に必要な資質能力の育成を図った。

#### 【V. 施策を構成する主要事業】

取組 No.	事業名(30年度事業)	事業コスト(千円)	事務事業評価		主要な施策の成果掲載頁
			総合評価	元年度の方向性	
①	海外戦略加速化事業	46,756	A	継続・見直し	17
②④	外国人留学生支援事業	31,440	A	継続・見直し	18
	おおいた留学生ビジネスセンター運営事業	28,562	A	継続・見直し	19
③	国際スポーツ大会誘致推進事業	48,240	A	継続・見直し	20
④	グローバル人材育成推進事業	19,661	A	継続・見直し	263

#### 【VI. 施策に対する意見・提言】

<p>○「海外戦略アドバイザー会議」(H30.9)</p> <p>・ビジネス案件の相談件数が増加しているベトナムをはじめ、ASEAN諸国はターゲットとしてどこも大事である。</p> <p>・外国人材の受入れにあたっては、地域の人に認知されコミュニティに溶け込んでもらえるような環境整備が必要である。</p>	<p>○平成30年度第4回大分県教育委員会(H30.5)</p> <p>・英語を発信できないのが日本人の弱さという意味で、発信力の強化は非常に大事なことだと思う。できるだけ外国の方と話し合いをしたり、生徒会や学校行事の中でも、子供たちのコミュニケーションのところで英語も含めた会話ができるといいと思う。</p>
---	---

#### 【VII. 総合評価と今後の施策展開について】

総合評価	施策展開の具体的内容
A	<p>・成長を続けるASEANの中でも親日的で経済力、人口等の総合力が高いタイにおいてプロモーションを実施し、新たな販路開拓やインバウンド誘客促進を図る。</p> <p>・香港に加え、これまでプロモーションで関係が構築できた台湾及び上海の民間事業者と連携して現地で大分フェアを開催し、県産品の販路開拓を目指すとともにメディア等を通じて本県の物産と観光をPRする。</p> <p>・学校現場におけるWeb会議システムの導入や、県庁・県教育センターでの研修における県内在住留学生等の国際交流サポーターとしての活用により、グローバル人材に必要な多様性を受け入れ、協働する力を育成する。</p>